

大崎麦作情報 総括号

令和2年産小麦の特徴・次年度に向けて

- 台風等の影響により播種時期が遅れ、年内の生育は平年を下回った。その後は高温であったことから生育量は回復した。
- 収量は平年を下回り、品質は平年並みであった。
- 次年度の栽培に向けて、排水対策を行いましょう。

1 気象経過

(1) 越冬前（10月上旬～12月中旬）

10月中旬～下旬は令和元年東日本台風や低気圧による記録的な大雨となったが、11月以降は少雨であった。気温と日照時間は平年並みであった。

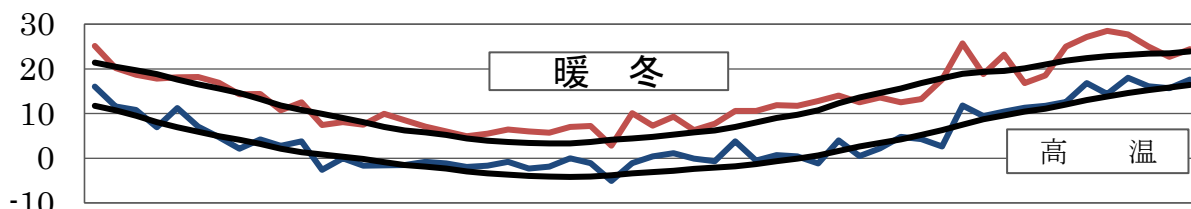
(2) 冬期間（12月下旬～3月中旬）

気温は冬期間を通じて高めで推移し、暖冬となった。日照時間は平年並であった。降水量はまとまった降雨のあったとき以外は、平年より少なくなり、降雪も平年よりも少なくなった。

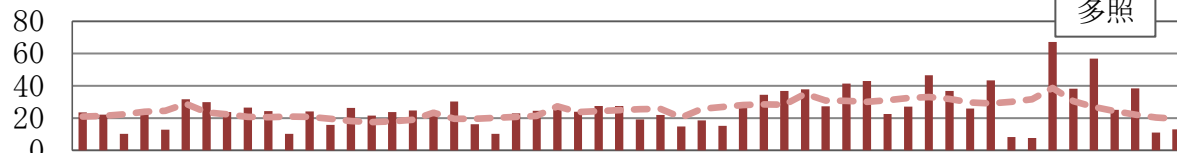
(3) 越冬後（3月下旬～6月下旬まで）

気温は4月下旬・5月下旬に平年より低くなったが、それ以外は平年より高くなった。日照時間は5月4～5半旬に少照であったがそれ以外は平年並みから多くなった。特に、5月6半旬～6月4半旬は多照で6月5半旬以降は少照となった。降水量はまとまった降雨のあったとき以外は、平年より少なくなった。

最高・最低気温（℃）



日照時間（時間）



降水量（mm）

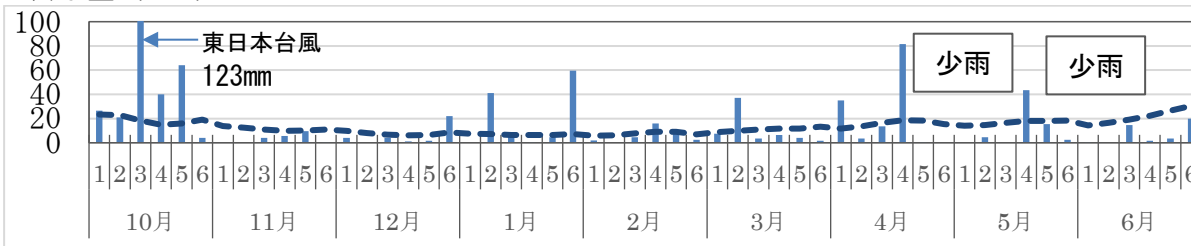


図1 気象経過（アメダス古川）

※実線又は棒グラフが本年度、点線は平年値

2 生育概況

(1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

播種時期は台風等の影響により大幅に遅れた。12月・2月の調査では、草丈は平年を上回ったものの、莖数は平年の半分程度となった。2月10日の幼穂長は0.2mmで平年並であった。また、生育調査ほ場においては鳥害が見られた。

(2) 越冬後（3月～6月）

3月20日時点では草丈は平年を上回ったが、莖数は平年の半分程度であった。4月10日時点では、草丈・莖数とも平年を下回り、幼穂長については3月20日・4月10日時点ともに平年を下回った。成熟期調査では稈長は平年より短いものの、後発の分けつが有効化し穂数は平年をやや上回った。

生育ステージについては、出穂期・成熟期ともに平年より遅くなった。登熟期間は高温多照傾向であったので、登熟は順調であったが、収量・千粒重とも平年を下回った。

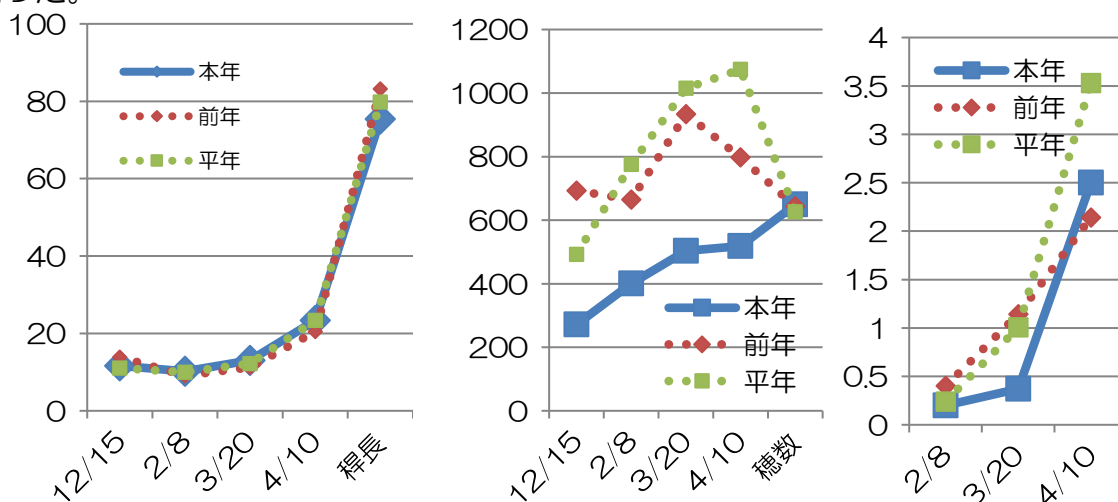


図2 草丈（左）莖数（中）幼穂長（右）の推移

表1 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	出穂期	成熟期
古川 シラネコムギ	本年	11/01	5/11	6/25
	前年差	13日遅い	同日	1日早い
	平年差	11日遅い	3日遅い	2日遅い

※ 平年差は、過去5か年（平成27年～令和元年産）の平均値との比較。

表2 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m ²)
古川 シラネコムギ	本年	75	9.1	649	36.4	756	518
	前年比	91%	112%	101%	83%	91%	78%
	平年比	94%	117%	104%	97%	103%	95%

※ 平年比は、過去5か年（平成27～令和元年産）の平均値との比較。

3 播種前の管理 ～排水対策～

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して、ほ場の排水対策をしっかりと行いましょう。

湿害は土壌中の酸素の欠乏が引き金になり、根の呼吸作用の阻害と土壌の還元化による有害物質の発生によって麦の活力低下につながります。

表3 麦類における生育時期別の湿害

生育時期	湿害の影響
播種直後	発芽不良, 不揃い, 発芽遅延
出芽後期～分けつ期	根の伸長抑制による浅根, 分けつの減少, 葉の黄化
節間伸長期～出穂期	根の機能障害及び弱小分けつの枯死, 幼穂生長阻害による穂数の減少, 穂の縮小化など
出穂期以降	粒の充実不良のための千粒重が軽くなり, 収量・品質が低下, 稈の伸長抑制

○明きよの施工

- ほ場の周辺とほ場内5～10m間隔に1本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

○補助暗きよ・心土破碎の施工

- 補助暗きよ（弾丸暗きよ、穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- 心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月15日～11月30日）◆◆◆◆◆

機械操作のミスと、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。また、作業機付きトラクターの公道走行の正しい基準を理解して、より一層の事故防止に努めましょう。

スローガン 「見直そう！ 農業機械作業の安全対策」